

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	学校づくり計画推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市教育振興計画 鳴門の学校づくり計画	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 <input type="text" value="26"/> 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なると			終期
(小項目)	教育行政				
施策	1	教育行政の充実			
基本事業	4	学校(園)の適正規模・適正配置の推進			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 「鳴門の学校づくり計画」の計画に位置づけられている、市内の公立幼稚園、小学校及び中学校。 ※幼稚園の再編は、小学校の再編に準ずることとする。						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	本市の子どもたちが将来にわたってより質の高い教育を受けることができるように、より良い教育環境を整えるため、「鳴門の学校づくり計画」に則って、複式学級の解消や新しい学校づくりを目指す。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	長期計画に位置づけた瀬戸地区と北灘地区の幼稚園・小学校の再編について、取組を進める。(瀬戸幼・小の保護者の意見により、平成26年度の実施内容が大きく異なる) さらに、将来的に瀬戸・北灘地区においては、1幼稚園・1小学校・1中学校となることを踏まえ、幼小中一貫教育(連携教育)の実現に向けた研究・検討を進める。 また、新たに複式学級となる学校が生じた場合は、その学校のあり方について、保護者及び地域の方と話し合いを行う。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		複式学級のある小中学校	3	3	2	2	2	校

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	北灘地区の幼稚園・小学校については地域の方々・保護者と協議を重ね、無事に休園・休校を迎えることができた。また、瀬戸小においては、学校再編に関する意見交換会を、鳴門東幼・小については、複式学級についての教育懇談会を実施した。特に、瀬戸小においては、意見交換会の回数も重ねてきたところであるが、再編についての理解を得ることは難しい状況である。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 市教委主催の説明会の開催回数	10	2	2	2	3	回
	2 地域の会合及び学校行事等での説明会の開催回数	12	5	4	3	4	回
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	複式学級のある小中学校	3	3	—	—	—	校
	目標達成率(実績/目標)	100.0		—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	0	176	176
		全体予算額	0	0	0	0	3,769	3,769
		決算額	0	0	0	0	2,771	2,771
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費	
2.0		0.0		13,756		16,527		

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	3,632	2,771	32	-	-
	うち一般財源	3,632	2,771	32	-	-
	人件費	13,034	13,756	13,756	-	-
	総事業費	16,666	16,527	13,788	-	-

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	鳴門東幼小については、複式学級になることへの不安の軽減につながった。瀬戸小では市教委の考えを的確に伝えることができた。
	効率性	C:あまり効率的でなかった	意見交換会は、粘り強く、何度も足を運ぶ必要がある。
②成果に対する評価	指標名	複式学級のある小中学校	適正規模への再編を行うためには、保護者・地域の理解を得ることが先決であり、そのための協議を重ねている。平成26年度末には、複式学級編成の2校が休校したことにより、当該校の児童については、現在、一定規模の教育環境のもと就学することができている。
	目標	3校	
	実績	3校	
	評価	B:概ね目標を達成できた	
③総合的な評価		<b>B</b>	これまでの取組のひとつの成果として、年度末に2校を休校することができたが、特に、瀬戸小においては、再編についての理解を得ることが難しい状況である。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	学校再編については、瀬戸小、鳴門東幼・小とも、保護者の理解が得られるよう、丁寧な説明、意見交換を進めていく必要がある。また、瀬戸中学校区については、将来的に、1幼稚園・1小学校・1中学校となる事が予想され、幼小中一貫教育に向けた連携を一層強化していく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	<b>3</b>
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	鳴門東幼・小においても、学校再編に関する意見交換会を実施する。瀬戸小も丁寧な説明・意見交換を継続していく。また、瀬戸中学校区幼小中連携研修会を実施し、幼小中の連携を強化するとともに、一貫教育についての方向性を検討する。			
	H28年度	鳴門東幼・小、瀬戸小ともに学校再編に関する意見交換会を継続する。瀬戸中学校区では、幼小中一貫教育に向けた連携の強化を図る。			